

目指せ！住みたい町No.1～わくわく三成大作戦～
「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」

令和2年10月6日（火）6校時

1 単元のデザイン

本単元の目標

- (1) 複数の資料を読み、必要な情報を関係付けながら、それらを目的に応じて活用することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 自分の考えを伝えるために、構成を工夫したり資料を活用したりするなどの工夫をして発表することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ
- (3) 自分の考えを伝えるための図表などを用いた説明の仕方やその効果、論の進め方について考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔学びに向かう力、人間性等〕

単元で取り上げる言語活動

自分たちの町、三成を活性化させるためのプランを企画し、提案（プレゼンテーション）する。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ、Cウ）

児童について

本学級の児童は、これまでに、「イースター島にはなぜ森林がないのか」で事実と意見の関係に注意して筆者の考えを読み取り、自分の考えを持ったり、読み手を説得するための工夫を読み取ったりすることを学習してきている。また、「防災ポスターを作ろう」では、自分が伝えたいことに必要な資料を選択し、構成を工夫して表現することの学習も行っている。しかし、図表などを用いて自分の考えを発表する学習は十分ではない。朝の1分間スピーチでも、調べてきたニュースの原稿をそのまま読む姿も多く見られ、必要な資料を提示しながら、相手意識のある話し方のできる児童はほとんどいない。

教材について

本単元では、自分たちの町の未来についてプレゼンテーションを行うという言語活動を設定している。本教材は、コミュニティデザインという考え方の紹介を中心にしながら、大きな二つの視点に基づいて、事例を挙げながらわかりやすく述べている。段落ごとのまとまりも理解しやすく、説明内容に対応する写真や図表も、筆者の主張や事例を理解しやすくするために配置されているため、図表などを用いて説明する方法やその効果を学ぶことに適した教材である。

指導について

情報を集める力、集めた情報を目的に合わせて取捨選択する力、複数の資料から読み取った情報を効果的に活用できる力を育てるために、学習のゴールとして、自分たちの町、三成を活性化させるためのプランを考え、プレゼンテーション（提案）を行うという言語活動を設定する。地域の方に提案するという活動を設定することで、意欲的に、また、教材文の読み取りに必然性をもって学習することができる。と考える。

教材文の読み取りでは、事例の挙げ方や資料の選び方が、筆者の主張を読み手に伝えるために有効かどうか、と言う視点で読めるようにするために、初めに筆者の主張を捉えさせる。

文章と資料（図表など）を結び付けたり、読み手の立場で資料について考えたりできるよう、NIEタイムを活用する。グラフや図、表などの資料が掲載されている記事を取りあげ、資料の選択の仕方や資料があることのよさなどについて考えさせる。また、学習と並行して、町づくりについて参考になる図書や記事、インターネットの情報にも触れさせておく。

児童が、本単元でどんな力を身に付けることができたのかを自覚することができるように、教材の読み取り、自分たちの町に適した企画の作成、プレゼンテーションによる提案の場面で、振り返りを行う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。((2) イ)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C (1) ウ) ②「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A (1) ウ)	①粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもってわかったことや考えたことを文章にまとめようとしている。

3 指導と評価の計画 (全 13 時間) (本時 4 / 13 時間)

次	学 習 活 動 (時数)	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	○「町の幸福」とは何か考え、三成の町づくりを考えてプレゼンテーションするという学習の見通しをもつ。(1)	○教材のタイトル「町の幸福論」を提示し、「町の幸福」について考えさせ、筆者が述べようとしていることを予想させる。 ○自分たちの町、三成を活性化させるためのプランを考え、提案することを知らせ、意欲付けを図る。	
二	○教材文を読み、筆者の主張を捉えるとともに、事例の挙げ方や資料の用い方など、論の進め方の工夫を読み取る。 ・文章全体の構成を把握し、筆者の主張を読み取る。(1) ・事例を読み、筆者の主張と事例の関係について考える。(1) ・筆者が用いた資料について、文章との関係や効果について考える。(1) (本時) ・町の未来についての自分の考えをまとめる。(1)	○本文を「序論」「本論」「結論」に分け、それぞれのまとまりで述べられていることを捉えさせるとともに、筆者の主張を確認する。 ○事例の内容を読み取り、それぞれの事例が、筆者の主張につながっていることを捉えさせる。 ○資料がある場合とない場合とを比較させ、資料があることのよさに気付かせる。	〔知識・技能①〕 ノート① ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解している。 〔思考・判断・表現①〕 ノート② ・筆者が、主張したいことを伝えるためにどのような事例を挙げているか考えている。 〔思考・判断・表現①〕 ノート③ ・筆者が、主張したいことを伝えるために活用している資料について、文章との関係や効果について考えている。

<p>三</p>	<p>○町づくりについて調べたことを活かして提案内容を考え、プレゼンテーションを行い、意見を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を整理して、三成の町に適した内容を選択し、提案内容を決定する。(1) ・提案に必要な事例や資料を考える。(1) ・提案内容に合わせてプレゼンテーションの構成を決め、発表に必要な資料を作成する。(3) ・提案内容のよさが伝わる話し方の工夫を考えながら、プレゼンテーションの練習を行う。(1) ・自分たちが考えた「わくわく三成大作戦」のプランについてプレゼンテーションを行い、お互いに感想を交流する。(1) 	<p>○集めた情報を町づくりの観点ごとに整理させ、提案する内容と取り上げる事例について、改善したい課題に合う内容になっているか考えることができるようにする。</p> <p>○写真や図表、グラフなど、資料として用いることができそうなものをできるだけ多く準備させておき、提案内容に効果的な資料を選択できるようにする。</p> <p>○基本的なプレゼンテーションの流れについて、教科書を用いて学習し、時間配分や話し方、資料の使い方などを工夫できるようにする。</p>	<div data-bbox="1169 185 1452 412" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能①] ワークシート①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。 </div> <div data-bbox="1169 421 1452 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現②] ワークシート②・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案に必要な事例や資料を考え、それらを活用して、自分の考えが伝わるよう工夫して資料を作成し、発表している。 </div> <div data-bbox="1169 698 1452 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] ノート①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもってわかったことや考えたことを文章にまとめようとしている。 </div>
<p>四</p>	<p>○単元の学習を振り返る。(1)</p>	<p>○どのように学び、何ができるようになったのか、単元全体を振り返り、自分に何が身に付いたのかを自覚できるようにする。</p> <p>○身に付けた力を、今後どんな場面で活用できそうか考えるよう声をかけ、生活場面に つなげて考えられるよう支援する。</p>	

4 本時の展開

(1) 本時の目標

筆者が選択している5つの資料について、その役割や効果を考え、資料があることよきや選択の仕方についてまとめることができる。(Cア)

(2) 本時の展開

学習活動 「主な発問」(思考の場) ・予想される児童の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	○評価規準 〔観点〕 (評価方法)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	◇前時を振り返り、筆者の主張に対する事例の挙げ方を想起させる。	
筆者はなぜ、この5つの資料を活用したのだろう。		
2 筆者が用いた資料について考える。 「なぜ、資料は必要なのでしょう。」 (個人→グループ→全体) ・文章だけでは伝わらないことがあるから。 ・全く知らないことはイメージしにくいから。 ・文章の中に数値をたくさん書かれていてもわかりにくい。 「それぞれの資料はどんな役割をしていますか。」 ・事例の祭りを知らない人に、祭りの様子をイメージさせる役割。 ・文章を読むだけでは伝わりにくいことを見るだけで分かりやすく伝えている。 ・図に示してあると、仕組みがよくわかる。 ・言葉を補助している。 「もう一つ資料を入れるとしたら、どんな資料を入れますか。」	◇これまでに、N I Eタイムで取組んだ記事について想起させ、資料が必要な理由について発言できるようにする。 ◇一つ一つの資料があることによって、どんな効果があるか考えさせ、資料の役割について捉えられるようにする。 ◆写真・グラフ・表・図のそれぞれを示し、資料があることによって、どんなことがわかるか考えさせる。 ◇五つ目の資料について、必要かどうか考えさせ、自分だったら他にどんな資料を使うか考えさせる。	○筆者が、主張したいことを伝えるために活用している資料について、文章との関係や効果について考えている。 [思考・判断・表現①] (ノート)
3 全体で話し合ったことをもとに、まとめを書く。	○期待される児童の姿 (まとめ例) 筆者は、自分の言いたいことを理解してもらうために、様子の分かる写真や、ぱっと見ただけで増えている様子や数字がわかる表やグラフなどを資料として活用している。何を伝えたいのか、文章だけではどこがわかりにくいのかを考えて、資料を選択することが大切。	

4 学習の振り返りをする。

○期待される児童の姿（振り返り例）

自分の考えを伝えるためには、文章や発表に資料を活用することが有効で、読み手や聞き手にとってどんなところがわかりにくいかを考えたり、自分の伝えたいことに何が必要かを考えたりして資料を選択すればよいことがわかった。

(3) 板書計画

わくわく三成大作戦

「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」

④筆者はなぜ、この五つの資料を使ったのだろう。

読み手の想像力を助ける。

- 資料①
- 行ったことがない人にも様子が伝わる。
- どんな町かがわかる。

文章だけではわかりにくいことを補助する。

- 資料②
- 来園者の数がだんだんふえていくことが見ただけでわかる。
- 十年間で約二倍になっていることがすぐに捉えられる。

数値や増減の様子を視覚的に示す。

- 資料③
- 表の数字を見るだけで、活動しているグループの数がわかる。
- 実施回数がどんどん増えている。初めの年の八倍、九倍に増えていることを一目で捉えられる。

文章だけでは説明しきれないことを補足する。

- 資料④
- 図に表すことで、バックキャストイングの方法（仕組み）がよくわかる。

資料

- 資料⑤
- 島留学によって、入学した人の数の変化がわかるグラフ・表。

資料（写真・図・グラフ・表・絵など）の役割

③筆者は、自分の言いたいことを理解してもらうために、様子の分かる写真や、ぱっと見ただけで増えている様子や数字がわかる表やグラフなどを資料として活用している。何を伝えたいのか、文章だけではどこがわかりにくいのかを考えて、資料を選択することが大切。